

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

近代における正義というと、「人権と民主主義」という言葉が思い浮かぶ人も多いだろう。近代的な正義の本質を、どう理解すればよいだろうか。

近代は、市場経済が広く展開し、交易の中心地としての「都市」が発展していった時代である。中世は 1 的な農村社会であり、人々が村や家で果たすべき役割はあらかじめ決まっていた（この点は、ヨーロッパも日本もかなりよく似ている。たとえば長男が土地を受けつぐ、など）。しかし市場経済と都市においては 2 な職業が成立するから、そこでは人は自分の職業を「選ぶ」ことができるようになる。するとそこに、「自分の意志で自分の人生を決めたい」という自由の要求が芽生えてくる。この自由の観念から、近代的な正義の二つの柱である人権と民主主義とが生み出されてくる。

まず、自由がどんな人でもつ「権利」として広く社会的にシヨウ認^①されると、それが人権となる。憲法の最重要点として「人権の尊重」ということが置かれ、その具体的なコウ目^②として、職業選択、婚姻、思想信条の自由などが書き込まれていく。さらに、出自や身分や宗教や思想にかかわらず、国家の基本法を守るかぎりだれもが人権をもち、その限りで対等であるという、きわめて徹テイ^③した考え方がヨーロッパでは成立していった。

ちなみに、近代以前の社会では、出身地・身分・宗教などによる差別はきわめて強コ^④である。その差別感を超えて「どんな人にも血が通っていて、自分と同じように泣いたり笑ったりして生きている同じ人間なのだ」という感受が生まれることによって「人権」という制度は成立する。では、このような感受はどうやって生まれたのだろうか。

キリスト教の「どんな人でも神の子だ」という思想の影キヨウ^⑤を挙げる人もいるが、やはり重要なのは市場経

済の発展であろう。さまざまな地域の人々が広く交流するようになると、出自に関わりなくだれもが「同じ人間」であるという実感が広がってくるだろうし、階層的な「a」が増して貧しい人でも商売で成功して豊かになる例が出てくれば「貴族だって先祖がたまたま成り上がっただけだ」と思う人が出てくるのが想像できる。また、商売の取引の上では貴族も平民も同じ人間として取り扱われる（商売相手に貴賤きせんはない）ことや、さらに書物などのメディアが発展することでさまざまな種類の人たちの声が聞こえるようになったこと、などを挙げることもできるだろう。

ちなみに「人権の尊重は「b」におけるローカルな正義であって、決して普遍性のあるものではない」という意見があるが、ぼくはそれには賛成できない。なぜなら、市場経済が一般化してくれば、「自分の好きな「c」を選びたい・自分の好きな人と結婚したい・自分のいいことをいいたい」という自由の要求が生まれるのは当然だからだ。イスラム圏においても、市場経済が展開していくにつれて、自由の権利への要求はますます強くなるにちがいない。

この人権という近代の正義は、個々人の意志決定の自由を他者の自由を損なわないかぎりで「最大限に」認めようとする点と、それを身分や民族や宗教にかかわらず社会の成員の「¹どんな人にも」認めようとする点で、近代以前の正義と大きく異なっている。しかしそれが近代以前の正義とまったく断絶したものかといえは、そうではないだろう。〈A〉

近代以前の社会においても、その成員一人ひとりに一定の「裁量の範囲」（自由にやってよい範囲）が与えられていたはずである。近代になると、その範囲が市場経済という環境のなかで大きく広げられ、かつ、国家の正式なメンバー（成員）の範囲も次第に広げられていった、と考えることができる。〈B〉

さて、近代の正義のもう一つの柱が「民主主義」、つまり「自分たちで決めたルールに自分たちで従う」とい

う自治である。これはどうやって生まれてくるか。

近代以前のルールや政策は神聖な権威をもつ者（王）が決定して人々はそれに従う、という形をとるのが普通だった。何が必要なルールかをめぐる争いを避けるためには、一人の神聖な権威をもつ最終決定者を決めておくのが都合がよかったからだろう。（C）

しかし近代になると、一人ひとりが自由な主体としての自覚をもつようになり、「d」できない法律には従いたくない」と考えるようになる。そうなるると必然的に、民主主義的な意志決定が要求されてくる。すなわち、「e」メンバーが平和共存するために必要なこととは何か、が議論されたうえで、納得のうえで決められることになる。ここでは、国家とそこでのルールや政策は成員の平和共存（と外敵からの防衛）のためにあるということが明確に「自覚」されており、そこにルールの正しさの根拠もある。民主主義においては、近代以前と異なって、正義の根拠が成員に「洞察」されているのである。

（西^{にし} 研^{けん} 『哲学の練習問題』による。一部改変）

問一 傍線①～⑤に入る最も適当な漢字を選んで符号で答えなさい。

①シヨウ認	ア 証	イ 称	ウ 賞	エ 承
②コウ目	ア 項	イ 稿	ウ 構	エ 綱
③徹テイ	ア 定	イ 低	ウ 呈	エ 底
④強コ	ア 誇	イ 個	ウ 固	エ 枯
⑤影キヨウ	ア 教	イ 境	ウ 鏡	エ 響

問二 空欄 1、2 に入る最も適当な語を次の中から選び符号で答えなさい。

- ア 自給自足
- イ 自業自得
- ウ 自問自答
- エ 自由自在
- オ 多芸多才
- カ 多事多端
- キ 多種多様
- ク 多情多恨

問三 次の文は、文中の〈A〉から〈C〉のどこに入るか、符号で答えなさい。

そして、ルールの正しさも神聖な権威に由来する、と考えられていたはずである。

問四 二重傍線部 1「それ」2「それ」3「その」は、それぞれどのような意味か。最も適当な語句を選んで符

号で答えなさい。

- 1 それ
 - ア 権利への要求
 - イ 近代の正義
 - ウ 意志決定の自由
 - エ 他者の自由
- 2 それ
 - ア 権利への要求
 - イ 近代の正義
 - ウ 意志決定の自由
 - エ 他者の自由
- 3 その
 - ア 裁量の
 - イ 成員の
 - ウ 正義の
 - エ 社会の

問五 空欄 a、e に入れる語として最も適当な語句を選び、符号で答えなさい。

- a ア 平等性
- イ 流動性
- ウ 革新性
- エ 継続性
- b ア イスラム圏
- イ 日本
- ウ 農村社会
- エ ヨーロッパ

- | | | | | |
|---|---------|--------|-------|-------|
| c | ア 意見 | イ 職業 | ウ 人生 | エ 身分 |
| d | ア 決定 | イ 制定 | ウ 納得 | エ 判断 |
| e | ア 権威のある | イ 貴族的な | ウ 対等な | エ 有力な |

問六 波線部①の「この点」の意味として最も適当なものを一つ選び、符号で答えなさい。

- ア 近代になって市場経済が広く展開したこと
- イ 交易の中心として「都市」が発展していったこと
- ウ 人々の果たすべき役割があらかじめ決まっていたこと
- エ 人権と民主主義の考えが生まれたこと

問七 波線部②の「近代以前」の意味として最も適当なものを一つ選び、符号で答えなさい。

- ア 神聖な権威を持つ王がすべての権利を持っていた時代
- イ 社会のルールを権威者が決め、メンバーが従っていた時代
- ウ 社会の中での人々の役割があらかじめ決められていた時代
- エ 出身地・身分・宗教などによる差別が強かった時代

問八 文中に書かれている内容と合致するものを二つ選んで符号で答えなさい。

- ア 意志決定の自由は、時代を問わず普遍的なものである。
- イ 近代の正義と近代以前の正義とは、完全に断絶しているわけではない。

ウ 市場経済の発展から、自由の要求が生まれる。

エ 自由な主体としての自覚を持たない者には、社会の成員の資格がない。

オ 人権の成立には、キリスト教の役割が最も重要である。

二 次の問いに答えなさい。

問一 ①～⑩の熟語の反対語を、ア～コの中から選び、符号で答えなさい。

- ①類似 ②脱退 ③膨張 ④束縛 ⑤容易
⑥独立 ⑦軽率 ⑧親密 ⑨巧妙 ⑩需要

- ア 加入 イ 慎重 ウ 困難 エ 稚拙 オ 収縮
カ 解放 キ 供給 ク 相違 ケ 従属 コ 疎遠

問二 ①～⑩の四字熟語の、□の箇所にはまる漢字を、ア～コの中から選び、符号で答えなさい。

- ①創□工夫 ②質□剛健 ③前代□聞 ④起承□結 ⑤栄□盛衰
⑥臨機□変 ⑦諸□無常 ⑧公私□同 ⑨機会□等 ⑩温□篤実

- ア厚 イ行 ウ実 エ枯 オ意 カ未 キ均 ク応 ケ混 コ転